

2009/3/21

Political Ecology of Life: Ideas on Humanosphere and South Asian Perspective

田辺明生

Keywords: Humanosphere (生存圏)、環境、持続可能性、life connectedness、positive sum game

本発表は、環境と人間に関するグローバルな認識を問いなおし、自然環境と人間が常に相互に作用しあうものであることを認識し、アジア・アフリカなどのローカルな地域に新たな目を向けるものである。

既存の認識からの転換としては、まず Land から Humanosphere (生存圏) への転換、そして北側諸国中心の視座から南側中心の視座への転換を目指す。

Land-土地-を起点とするこれまでの考え方では、土地は切り分けられ、閉じたものであり、持続可能性よりも生産性が重視されて、自然は人の対象物として切りはなされていた。

それに代わって提唱したいのは、"geosphere" という考え方である。人間は他の生物や水、太陽、大気などの多くの要素と共に生き、相互に密接にからみあったものである。それを捉えるためには、いかにその相互関係を科学的・文化的に豊かなものにするかが問題である。

たとえば今回 Nepal 滞在中に見た microhydro 発電機は、環境とうまくつきあっていくすばらしいシステムである。Nature を対象化して排除し、変えるべき対象とするのではなく、生存圏に共に生きるものとしてうまくつきあっていく必要がある。生活環境が非常に多様な南アジアやアフリカを、貧困や世界のやっかい者という認識から、よりポテンシャルティのある認識へと変える必要がある。マクロからミクロまで様々な持続可能な方法（及びそのコンビネーション）があるはずだし、必要なのである。

質疑では、持続可能性 (sustainability) の具体的内実についてや、政治的文脈と本発表のくいちがいなどが表出したが、より細かな文脈でのよりより話し合いが必要だということであった。

(記録：堀江未央)